広報かじき

No.328
昭和57年3月号

発行　加治木町
編集　総務課

錦江幼稚園にて

うれしいなあ……もうすぐ一年生

いよいよ入学シーズンとなりました。今年町内の新一年生は柁城小 136人，錦江小 133人竜門小20人，永原小11人の計 300人です。（２月末日現在）

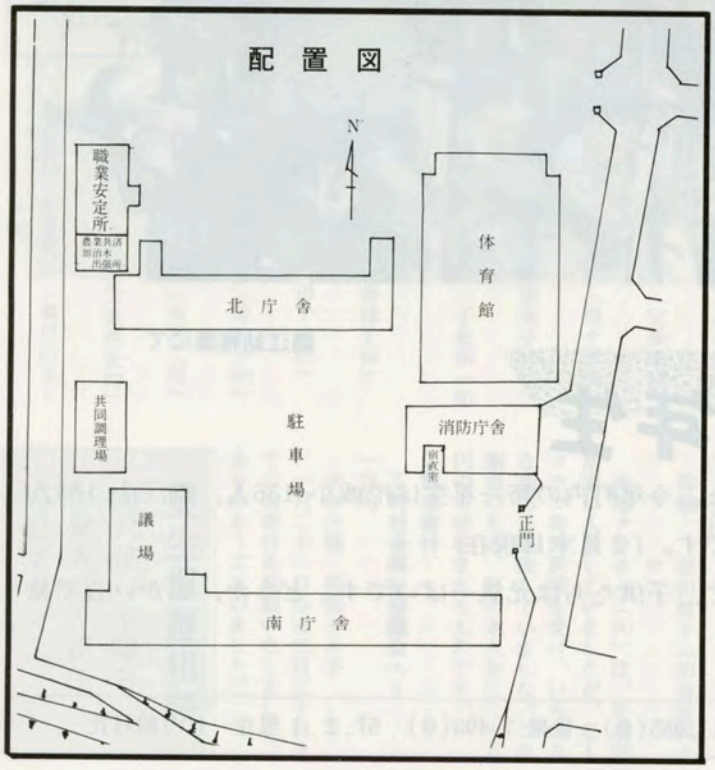
お父さん，お母さんの期待を受けて，子供たちは元気一ぱいです。どうか，暖かい心で見守っていてください。

◆人口　22,686(＋12)　男10,701(＋12)　女11,985(０)　世帯 7,493(０)　57．2．1現在　(　)前月比

町役場が移転します

〝旧加中跡地へ〟

３月２９日(月)から新庁舎で業務開始



現庁舎での業務は三月二十七日(土)正午まで

町役場は三月二十七日から二十八日にかけ旧加治木中跡に移転します。

新庁舎での業務開始は、三月二十九日(月)の予定です。

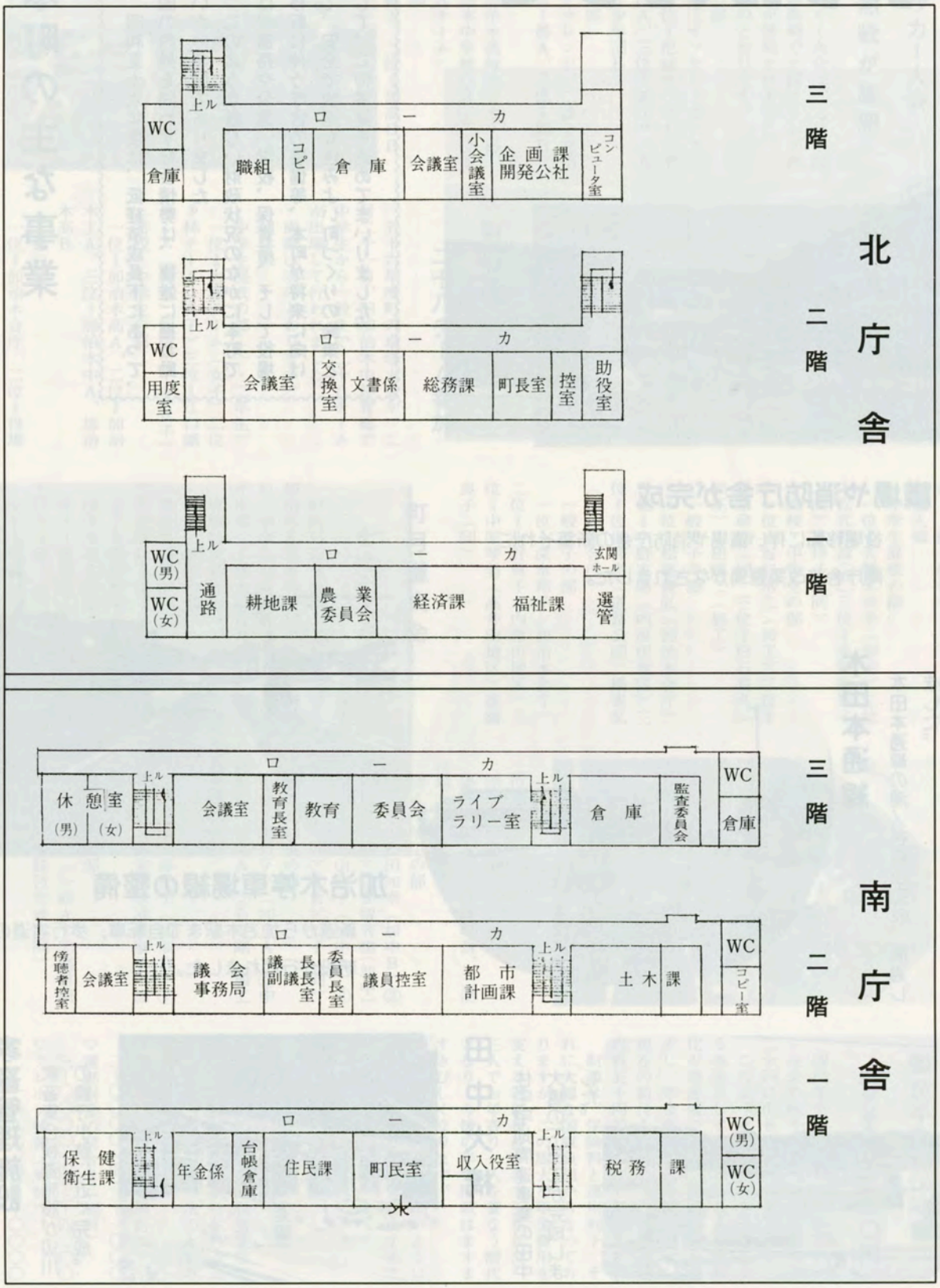
▽新庁舎の住所は、加治木町本町二五三番地です。

▽電話は、今までと同じく(二)―二一一一番です。

▽正面玄関（入口）は、南庁舎と北庁舎間の東側中央からです。

各課の配置図（平面図）は次のとおりです。

新役場庁舎平面図（各課の配置）

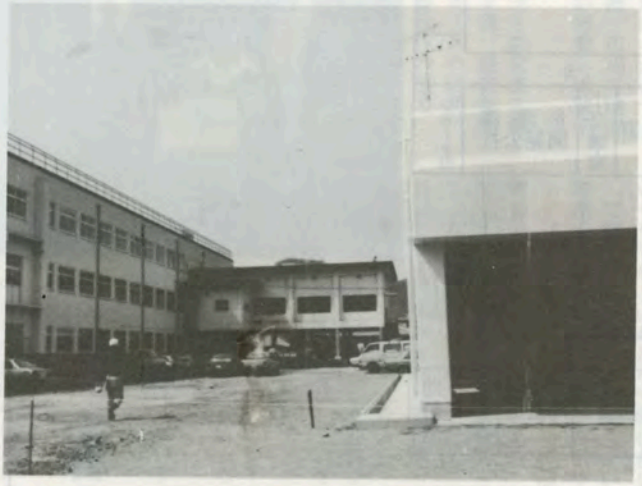


ふりかえって

本町の主な事業

昭和五十六年度は、低経済成長下にあって、国の内外を問わず社会情勢は、複雑に揺れ動いた一年間でありました。

このような厳しい財政状況のなかに本町では、道路や公園、学校、保育所、そして役場移転に伴う庁舎の整備等、本町が将来に向けて、安全で快適な住みよい町づくりの施策として、この事業を進めてまいりました。



議場や消防庁舎が完成

役場移転に伴い議場や消防庁舎の新築それに南庁舎等改築整備がなされました。

木田本通線

木田本通線の湯ノ谷橋が完成、開通しました。

加治木停車場線の整備

新道から加治木駅まで自転車，歩行者道の新設が行われました。

家畜管理施設

家畜集合検査施設が辺川の鎮守小跡に近く完成。

田中大橋

住宅宅地関連事業の田中大橋の下部工が完成しました。

56年度を

十三塚原畑総事業ほぼ完成

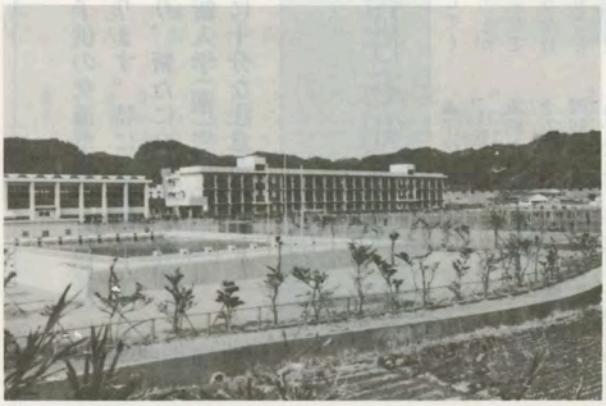
町内楠原台地の区画整理事業の基幹農道及びほ場整備がほぼ完成しました。

加治木保育所が完成

町立加治木保育所が諏訪町の九電跡地に完成しました。

4月からは町内のよい子たちが入園します。

なお，この事業費の一部は国民年金積立金還元の融資によるものです。



加治木中のプール グラウンドの整備

昨年4月中学校が統合され，この施設のプールが完工し，グラウンドが整備されました。

小山田の学力橋が完成

災害復旧事業で完成したものです。

学力橋

高岡公園の整備

本年度は主に植樹の整備がなされました。

大山西別府線開通

姶良町大山から曲田に通ずる農免道路が完成しました。

特集・新学期を控えて

新入学(園)児の交通事故を防ごう

新学期は、子供の交通事故が心配される時期でもあります。特に行動範囲がグッと広がったり、新たに自転車を利用し始めたりする新入学(園)児については、これまで以上に十分な注意が必要です。

子供の行動特性を知ろう

道路にいきなり飛び出してくる子供にハッとさせられることがよくありますが、子供は時として大人が想像もつかないような行動をとり、事故につながることも少なくありません。子供を交通事故から守っていくためには、まず、次のような子供の特性を十分理解する必要があります。

▲子供は、一つのことに注意が向くと、周りのものは目に入らなくなる。

▲子供は、物事を単純にしか理解できず、考え方も自己中心的になりがち。自分が黄色い旗をあげれば、車は必ず止まってくれるものと思い込みがちである。

▲子供は、応用的な動作ができない。いつも通る道では交通ルールは守れるが、知らない道では守れない。

▲子供は、「あぶないよ」とか「注意しなさい」というような抽象的な言葉だけではよく理解できない。具体的な行動を通じて理解させる必要がある。

▲子供は、大人や年上の子のまねをする。

▲子供の視点は大人よりも低い。駐車中の車などがある場合、大人には先を見とおせても、子供には見えないことがある。

実例をあげ具体的な指導を

子供の交通事故を防止するには、子供の特性を理解した上で、次の点を具体的に指導していくことが大事です。

1、実際の通学(園)時間に合わせて、保護者と児童が実際にその通学(園)路を何回か通って、信号機、道路標識の見方、横断歩道の正しい渡り方を指導する。

2、寝る前に翌日の準備を済ませるよう習慣づける。また、登校時間に余裕をもたせ、忘れ物がないかどうか登校前に必ず点検するよう習慣づける。

3、帰宅後、遊びに行ってよい範囲や帰宅時間などを、自宅からの距離や交通環境を考えて決め、子供にしっかり守らせるよう指導する。

4、子供に自転車を利用させる場合には、子供の年齢、体力、能力などを考えて体に適した自転車を選び、また、乗る場合は必ず点検するように指導する。

5、自転車を安全に利用させるには、まず、空き地や公園など安全な場所で、安全な乗り方、特に正しい止まり方と交差点の安全な渡り方を十分に教えてから、徐々に道路になじませるようにする。また、道路環境や交通量を考慮して、自転車に乗ってもよい区域、時間などを指定して利用させる。そして、決めたことについては必ず守らせるとともに、子供がふだんどのくらい自転車を利用しているかを把握して、事故防止に努める。

子供の交通事故を防ぐには、以上の点をよくわきまえるとともに、わが子の性格をよく考え、日常生活のなかで具体的に指導していくことが重要です。

障害をのりこえ

青春小説「光心」を出版

辺川の田代俊一さん

俊一さん（右）とホームヘルパーの霧さん

町内辺川の田代俊一さん(三四)が重度身体障害者ながら小説「光心」第一部「友」を出版しました。

田代さんは、昭和二十二年、父俊男さんの長男として辺川で生れ、生後間もなく脳性小児マヒにかかり手足は全く不自由。小学校は祖母に負われて通学、中学校入学は免除。その後独学で本や新聞等を読み、昭和五十二年には、詩歌集「生の詩」を出版しています。

小説は、桜島の見える静かな町に建設された身障者施設に入った青年、高一という手足の不自由な脳性小児マヒの主人公が、一人の人間として生き、社会に認められ、施設の自治会長に推せんされ「自分でも他人の役に立つのか」と、同寮の友人や医師、看護婦らとの関係をめぐって感激するのが舞台となっています。

小説のあとがきとして田代さんは、「この一編を完成させるのに七年八か月かかりました。

十年ほど前から小説に興味をもち、自分でも書いてみたいと思っているところにホーム・ヘルパーの訪問を受けるようになってさっそく書きはじめました。

週に二回訪れるホーム・ヘルパーの方に、あらかじめ頭の中で整理した文章を解りにくい言葉を聞き取っていただいて書きとめてもらいました。

この小説はぼくの心の結晶です。ぼくの内にある希望・夢・願望いろいろな気持ちなどを書いたつもりです。

独り善がりなところがあるかもしれませんが、ぼくの心を少しでも解っていただければ幸いです。

小説を書くようになって自分自身を深く見つめることが出来るようになり、また自分に自信がもてるようになりました。

これからも書くことを心の糧として、一生懸命頑張っていくつもりです。

最後にこの七年間代筆していただいた三人のホーム・ヘルパー・特にそのうちの六年余りを筆記していただいた鶴さんに深く感謝いたします。

またこの小説を書くにあたっていろいろアドバイスしてくださった方や、ぼくをここまで育ててくれた両親に感謝します。

みなさまからのご意見、ご感想をお待ちしております。」とあります。

この本は、町立図書館にもあります。

〝建国記念の日〟本町でも記念行事

〝建国記念の日〟の二月十一日本町では、建国記念の日奉賛会主催により式典や記念講演が行われました。

この日は、町内の一般住民ら約八十人が参加して、式典が護国神社境内で午前九時半から始まり、神事のあと奉賛会を代表して東國雄会長が「この意義ある記念行事にお集りいただき、今日の平和な社会に感謝できることをお喜び申し上げます。」とあいさつ。つづいて町内の目抜き通りを小旗を手に〝日の丸行進〟しました。

このあと、福祉センターで「これからの日本」と題する元加治木工業高等学校校長森一郎先生の記念講演がありました。

日の丸行進する参列者

技能検定 国家試験に合格

昭和五十六年度前期における技能検定が、昨年十月に実施されましたが、これに本町から受検された十一人の方々がめでたく合格。このほど労働大臣から合格証書が贈られました。

これは、技能水準の向上と、これを通じ、地域産業の発展を目的に、職業訓練法に基づき国家試験として実施されるものです。

合格者は次の方々です。

一　級

建設機械整備＝貴島武人（春日団地）山下辰則（高井田）

とび＝佐伯勉（竹下）

タイル張り＝畠中輝夫（宮田ケ平）

表装＝池田　哲（江口団地）

塗装＝桜川貴紀（上浜）南栄三郎（同）松元正男（西反土後）

二　級

造園＝内村一二（札立）

建設機械整備＝三根七百二（岩原東）坂元美行（東ヒナバ）

四十七人が一斉にスタート。

47チーム329人が健脚を競う

町内一周駅伝大会

第十五回町内一周駅伝競走大会は、一月三十一日、町立図書館前を午前十時、能瀬教育長の号砲で一斉にスタート。四十七チームの選手が健脚を競い合い、一般では、消防チームが昨年に引き続き優勝しました。

出場チームは、一般から十四、高校十九、中学校十四の計四十七チームの多数にのぼり、町立図書館前をスタート、小山田―辺川―西別府―木田―図書館前ゴールの七区間、十九・四キロに三百二十九人が日頃の練習の成果を発揮。沿道の声援のもと全員が完走しました。

また、おなじみ札立の大脇武二さん(五〇)は、今年も元気なところを見せ全区間を一人で完走。盛んな拍手をあびていました。

成績は次のとおりでした。

団体一般の部

㊀西部消防A　1時間6分11秒
㊁町役場A　1時間7分44秒
㊂コカ・コーラ　1時間10分13秒

団体高校生の部

㊀加工陸上A　1時間3分23秒
㊁加高陸上A　1時間4分42秒
㊂加高野球A　1時間6分32秒

団体中学生の部

㊀加中陸上A　1時間4分44秒
㊁加中サッカーA　1時間10分27秒
㊂加中野球OB　1時間10分35秒

区間賞

一般＝一区原口正則（加役A）二区高橋昭弘（同）三区竹下健二（同）四区笹峯勉（西消A）五区岩元啓吾（同）六区石野忍（コカ・コーラ）七区久木田浩徳（西消A）

高校生＝一区小屋敷悟（加工陸A）二区野間育人（加高ハンド）三区南晋吾（加高陸A）四区篠田成己（同）五区沢津寿久（加工陸A）六区中村光秀（同）七区竹内道弘（同）

中学生＝一区隈原伸一（加中陸A）二区向江剛（同）三区佐藤大介（同B）四区上村光秋（同A）五区今村滋（同）六区垣内英人（同）七区山下暢（同）

一般優勝に輝いた消防チーム

記事の訂正

先月二月号表紙の記事中、「加治木工高陸上A」・「加治木中陸上A」は、陸上Aの間違いでした。おわびして訂正します。

あと３メートルガンバレ
第３中継点で

町サッカー大会
熱戦が展開

町のサッカー大会は、二月十四日、町営運動場で十四チームが出場して熱戦が展開されました。

成績は次のとおりです。

小学校の部

優勝＝錦江サッカースポーツ少年団A、二位＝柁城サッカースポーツ少年団A、三位＝錦江サッカースポーツ少年団B

中学校の部

優勝＝チャレンジ、二位＝加治木中サッカー部A、三位＝同B、

高校の部

優勝＝加治木高校サッカー部、二位＝加治木中学校OB、三位＝うっちゃんチーム

一般の部

優勝＝蔵王、二位＝加高OB

町の卓球大会
二十八チーム参加

五十六年度町の卓球大会が、二月二十一日、旧加治木中体育館で中学生から一般まで二十八チームが出場して行われました。

成績は次のとおりです。

団体戦

中学生混成の部（一・二年生）

一位＝大塚チーム（女子）二位＝林チーム（女子）三位＝江口誠チーム（男子）前田チーム（女子）

高校・中学生の部

一位＝加治木高A、二位＝加治木工A、三位＝加治木中A、加治木高B

一般の部

一位＝加治木合庁、二位＝役場A、三位＝加治木クラブ、役場B

個人戦

中学生混成の部

一位＝大塚久美子（加中）二位＝松元和彦（同）三位＝丸野由梨子（同）林祥子（同）

高校・中学生の部

一位＝谷口浩二（加工）二位＝福永政幸（同）三位＝白石良久（加高）川田徳二（加工）

一般男子の部

一位＝松尾義弘（加治木合庁）二位＝小野実徳（内原田地区）三位＝佐保井忠（道路公団）横峯弘（加治木合庁）

一般女子の部

一位＝深水裕子（加治木合庁）二位＝小野典子（内原田地区）三位＝中原琴美（高井田地区）後藤良子（同）

町弓道大会
七十七人が出場

町内弓道大会は、二月十三日、加治木工業高等学校弓道場で開かれ、中学生から一般まで七十七人が出場して盛大に行われました。

成績は次のとおりです。

団体中学生の部

男子＝優勝加中B　二位加中C　三位加中D

女子＝優勝加中A、二位加中B

団体高校生の部

男子＝優勝加工D、二位加工A　三位加高B

女子＝優勝加高C、二位加高B　三位加高A

団体一般の部

優勝一般A、二位教職員、三位役場A

個人中学生の部

男子＝①野田知幸（加中B）②後飯塚晃（同）③安留秀雄（加中）

女子＝①郡山玲子（加中A）②福丸淳子（同）③倉元公子（同）

個人高校生の部

男子＝①竹下巧（加工A）②中野重和（加高A）③石原剛（加工D）

女子＝①加藤桂子（加高B）②倉元貴子（国実）③池田泰子（加高C）

個人一般の部

①猶木博文（一般A）②猪目明（役場A）③猪目忠義（同）

国民年金の保険料
四月から五、二二〇円

国民年金の保険料が今年四月から従来の四千五百円から五千二百二十円に引き上げられます。

このような引き上げを必要とする理由として、わが国の人口高齢化が急速度で進み、受給者数が増大し、年金額が膨大な額に達し、現在の給付をまかなうのに月三千六百五十円の赤字がでています。

財源は、保険料と運用利子、それに大幅な国庫負担からなっておりますが、この膨大な年金費用を支える若い世代が八十五年には、三人でお年寄り一人を養なう時代となり、今後の年金財政はますますきびしくなります。

後代に負担のかからないように毎月納付により滞納を防止することも必要です。

電話局窓口の
電話番号が変更

九州管内の電報電話局営業窓口の電話番号がすべて統一されることになり三月一日から次のとおり変更になりました。

▽電話新設の問合せ（無料）
二一〇〇〇〇（旧）三一一〇〇〇

▽電話料金の問合せ（無料）
三一〇〇〇〇（旧）三一四二〇〇

▽テレホン情報（無料）
二一一九九（旧）三一〇〇〇〇

錦江小ボランティア活動で表彰さる

県社会福祉協議会から

錦江小学校では、五十四年度から三か年間、県のボランティア協力校の指定を受け、「小さな親切運動」等研究と実践を積み重ねてきました。その実践活動が認められ、このほど、県の社会福祉協議会から感謝状と楯が贈られました。錦江小では、この表彰に学校をあげて喜んでいます。

過去三年間実践してきた主な活動は、次の四つに分けられます。

(1) 校区内の公民館、広場の清掃作業、花いっぱい運動（地域子供会を中心に）

(2) お年寄りの方々との交流（独居老人の訪問、文通、発表会等への招待、老人ホームの訪問）

(3) 赤い羽根共同募金への協力（自分の小使いをためて）

(4) 加治木養護学校との交流等

ボランティア担当の西村先生は「豊かな物質文明社会にあって、小さな子供達にまで物質優先、お金優先の考えが横行し『心の貧困』が叫ばれる昨今です。今こそ、私達一人ひとりが、子供や老人、身障者や恵まれない方々、それにお互いに対しても、あたたかい『思いやり』や『いたわり』の心をもって接していかなければならない時だと痛感します。錦江小のボランティア活動は、先程の四つの活動を中心に、『小さな親切運動』や『オアシス運動』の推進を通して、おはよう、ありがとう、しつれいします。すみません励行等、そうしたあたたかい、ほのぼのとした心情を育てたいと念じています。」と寄稿してくださいました。

「オアシス運動」とは次のことです。

オ＝おはようございます。

ア＝ありがとうございます。

シ＝失礼しました。

ス＝すみませんでした。

喜びの楯を手に

学年末・卒業・就職のシーズン 少年の非行を防止しましょう

非行防止は、まず家庭から
子供のことばづかいや行動を
良く理解してあげましょう

いよいよ、春の学年末、卒業、就職の時期となりました。非行防止の対策をいくつか考えてみましょう。

▽**少年非行は、早期発見、早期補導がもっとも必要です。地域の輪を深め、「愛の声かけ」を進めましょう。**

▽子供の能力以上の期待は考えものです。無理な「押しつけ」は「反発」に変わります。

▽子供の言い訳、考え方を十分理解し、社会性をうえつける指導をすることが大切です。きびしさの中にも、ゆとりのある、話のわかる両親でありたいものです。

▽少年をとりまく環境をきれいにすることは大人の責任です。村や街に氾濫している、少年に害のある雑誌類、利益追求だけに走る各種の営業等が常に少年非行とかかわりを持ち、問題を投げかけています。

業者自身に自粛してもらうとともに、幅広い住民運動を盛り上げていきましょう。

非行の芽は早いうちに摘み取るように

竜門の会

呟きは親しさこもる蕗の薹　井之上　透山

読み返す手紙みじかし置炬燵　大迫　すみ

初雪や空の蒼さの抜けるほど　高木　正男

降る雨のしのびやかなり春隣　上野　光

春月や子なき夫婦の犬抱きて　川崎　黒兎

雪着けしままの火の山噴き募る　加藤　白柳

初夢の口に出すには惜しまれて　田代　俊泉

寒いく日石蕗の穂絮のなほとばず　鶴田　耕

寒に耐え葱の手入れや鍬始め　宮脇　思川

初午や神馬の瞳はまばたかず　横山　江南

心配ごと相談

毎週木曜日の午前中町福祉センターで応じています。お気軽においでください。

加治木ロータリークラブ賞（55年度省エネ作文コンクール入賞作）

我が家の省エネ作戦

加治木中一年　山下謙一

「省エネ」と言う言葉は、ついこの最近、どこからともなくふと入ってきた言葉である。しかし、現在では、いつも日常使ってきた言葉に溶けこんで、ごく普通に使われている。

それとともに、省エネという新しい活動が活発になっている。例をあげてみると、電気をこまめに消すことや、水の節約などである。

しかし最近、テレビのニュースなどで、今年の石油は確保できるという報道があった。この知らせにみんな気をゆるめ、省エネ活動が活発でなくなったような気がする。先日、友達と遊んだ夕方、

「電気をつけて。」といわれたので、

「まだ明るいがね。それに電気代ももったいないよ。」とぼくは言った。

「でも今年の石油は大丈夫なんだよ。」と友達が言い返した。ぼくはこの時、省エネとは、資源がとぼしくなった時だけの活動か、省エネとはこんなものかとつくづく感じた。

ぼくの家では、電気代、水道料金などの節約と、省エネルギーとを結びつけて考えている。

ぼくの家では、「必要な時、必要なだけ。」をキャッチフレーズとして節約に努めている。

中でも我が家じまんの省エネ作戦は、トイレの水の節約である。

ぼくの家の水洗トイレは、水を流すと、タンクの中に水がたまり中にあるゴムボールのようなものが水について浮き上がり、そのボールがある一定の所にくると水が止まるのである。

だが、タンクが大きいため、余分にたくさんの水が流れてしまうのである。そこで役場からのヒントを得て、タンクの中に大きな石を入れ、早く水がたまるようにするわけである。母に銀行からの水道料金を聞くと、水道代はほぼ半減していたという実例もある。

このように、省エネというのは小さな思いつきと実行力で、大きな節約となる。

「ちりも積もれば山となる」という言葉がある。もし、日本の家全部、使っている部屋を除いて電気を消すと、そうとうな節約となるだろう。ぼくの家は、夜に茶の間しか明かるくないので、まるで留守のようだなと言われる。これも別な角度から考えると、うれしい忠告になる。

ぼくたちは、資源無しでは生きる事が出来ない。石油危機がきてからの省エネではおそすぎる。そんな見せかけの省エネなんかでなく、ふだんから省エネルギーを心がけなければならない。

お水、石油、ガス、電気など、他にもたくさん節約しなければならないものがあると思います。一人ひとりが気をつけて、省エネ対策を考える必要があると思います。そして、家族みんなが力をあわせて、むだのないようにすることが一番大事だと思います。

加治木都市ガス賞（55年度省エネ作文コンクール入賞作）

わが家の省エネ対策

竜門小五年　児玉悦子

私の母は、いつも水を出しっぱなしで、外に出たり、コタツにねたりします。私が母に「お母さんもったいないがね、しめんと。」というと、

「あんたが出したんでしょうが人のせいにしなさんな。早くしめておいで。」と、私のせいにします。父もそうです。さつきに水をかけて、出しっぱなしにしていて庭は、雨がふった後のように、じくじくしています。

母が、「またお父さんは、水を出しっぱなしにしてるがね。」とおこられています。

私が学校から帰ったら、水はチョロチョロ出て、湯沸かし器のガスは、つけっぱなしで、たしかめもしないでお母さんは仕事に行っています。いつも私が注意するのに忘れているのです。それでわが家では話し合ったのです。家族みんなで話し合い、一人ひとり、何の節約をするか決め、エネルギーのむだにならないように気を付けています。

お父さんは、ストーブが余計な時についていたら消すこと。お母さんは、コタツがついていたら消すこと。お姉ちゃんは、保温に気をつけること、お兄ちゃんは、テレビがついていたら、スイッチを切ること。私は、水、ガスが出ていたらとめること。

このように、一人ひとりがエネルギーの節約に努めています。

しかし、忘れることが、たびたびあります。省エネというと、一番初めにうかぶのが石油です。私の家では、石油の省エネでは、お風呂を、たき木でわかす。ストーブを余計な時につけない、を心がけています。

お風呂は、昔からたき木でたくようにしているので、石油は使いません。今、太陽熱で、お風呂をわかすところが多いようです。これも、石油の省エネによる工夫だと思います。

たき木は、ガソリンにくらべると、わくのはおそいようですが、省エネの面では、たき木や、太陽熱などは、いいと思います。

時間励行

町民みんなで、時間を大切にし会合等時間を守りましょう。

お知らせ

3月

くわしくは、先日配布しました交通災害共済のしおりにあります。加入申し込み等問い合わせは、役場住民課へご連絡ください。（電話(2)-2111）

交通災害共済に加入を！年360円

今年も交通災害共済の切替をする時期になりました。家族ぐるみで加入しましょう。安い掛金！　大きな保障！

▽**掛金**＝一日一円、年三百六十円

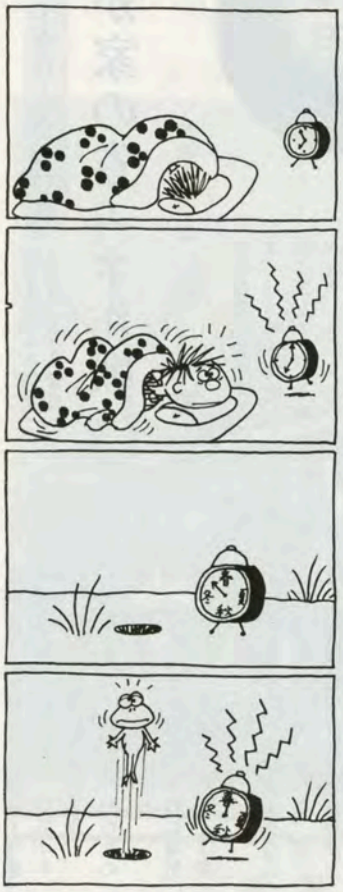
▽**期間**＝昭和五十七年四月一日から翌年三月三十一日まで

▽**見舞金の額**＝一等級八十万円、二等級十五万円から九等級一万円まで傷害に応じ支給

見舞金額の一等級は死亡の場合二等級以下は、治療実日数によって異なります。（支給されない事故、支給制限の場合もあります。）

ほのぼの家族

伊田公彦



うぶ声

一月二十一日から二月二十日までの受付分

出生児	保護者	
宮田新二	和行	蔵王団地
田ノ上勇太	優	内原田
新居田稔	直	西塩入下
山下裕弘	純一	西江口団地
野間　繁	春男	浜村
中野　毅	幸男	吉原
政田秀栄	智治	高井田
内村博幸	博文	西反土後
木村貴志	仁	高井田
徳田理華	芳隆	柳田
吉村直子	和美	西ノ原
吉村貴行	則幸	西諏訪
綾田拓樹	成樹	口ノ町
東　敬之	秀行	岩原西
樗木理香	初美	上浜
谷川慶子	春海	柳田
入來晃久	敦久	豊町
大野聡也	清文	西塩入下
志々目雅樹	博人	蔵王団地
久保田成美	繁光	春日団地
上原正人	一夫	西塩入下
石野めぐみ	道広	石野
田代裕美	弘幸	空港団地
妹尾真由美	正信	蔵王団地
上村和裕	正和	端山
増田光亮	喜男	岩原西
末永耕大	利治	天神
本山晃子	正人	浜村
川崎隆子	隆志	蔵王団地
白石佳彦	民夫	西江口団地
竹下　豊	美好	岩原東
上舞亜紀	邦博	垂ノ口
榎屋勝彦	國彦	豊町

御寄付

香典返しのかわりにご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げますと共に、故人のご冥福をお祈りいたします。（　）内は故人。

＝町社会福祉協議会へ＝

五万円　石野　石野斉（母ソデ73）

三万円　西諏訪　曽木隆清（子息清彦27）

三万円　天神　西田吉二（妻トキエ71）

五万円　永原　永元初男（母シゲ80）

五万円　弥勒　原田夏子（伯母後藤チヨ90）

三万円　楠園　林勝治（母トキ76）

二万円　東塩入　米森俊郎（母ヒデノ81）

三万円　伊部野　日高勲（母ケサマツ87）

三万円　岩原東　内野宮子（父長雄78）

二万円　須崎　郡山正秋（母ナヲ86）

三万円　端山　丸野武（妻英子49）

十万円　西諏訪　壱岐正治（子息慎一郎34）

五万円　豊町　江口勝（妻綾子48）

三万円　菖蒲谷下新秀光（母アサ85）

一万円　上浜　森シヅ子（母スマ93）

三万円　石野　石野キク（夫武二72）

二万円　高井田　山上タマエ（夫虎次79）

三万円　西諏訪　末重等一（義母田丸トメ81）

二万円　上嶽　樗木アヤメ（夫盈49）

＝町育英奨学資金へ＝

二万円　岩原東　内野宮子（長雄）

三万円　石野　石野キク（武二）

五万円　西諏訪　壱岐正治（慎一郎）

＝町国民年金協議会へ＝

一万円　高井田　山上タマエ（虎次）

＝町老人クラブ連合会へ＝

一万円　西反土後　林ハナ（夫松岡80）

二十万円　弥勒　原田夏子（伯母後藤チヨ）

後藤チヨさん（90）は、生前望岳園に入園していましたが、老人クラブ等の慰問を受け、いろいろな親切に感謝していました。この謝恩のため、町の老人会に二十万円の寄付をされたものです。

○篤志寄付

＝町社会福祉協議会へ＝

一万円　西反土後　稲留チエ子

一月二十一日から二月二十日までの御寄付を掲載いたしました。ありがとうございました。

更生保護相談

毎月第一水曜日
午前九時～正午
町福祉センターで